

# 會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號五第 卷十二第

行發日一月五年四十四正大

## 論叢

失業者統計概説……………法學博士 財部 靜治  
 課税と時の元素……………法學博士 神戸 正雄  
 我國近世の土地問題……………經濟學博士 本庄榮治郎  
 御家人の特質……………文學博士 三浦 周行

## 說苑

朝鮮の雜種農業……………法學博士 河田 嗣郎  
 保險の本質に就て……………法學士 小島昌太郎  
アダム・スミスに於ける 勞働價值法則の妥當性に就て……………經濟學士 森 耕二郎  
 マルクスの絶對地代に就て……………經濟學士 八木芳之助

## 雜錄

金利に關する一研究……………經濟學士 蜷川 虎三

## 法令

輸出組合法・重要輸出品工業組合法・染料製造獎勵ニ關スル法律・外國人土地法・預金部預金法・大藏省預金部特別會計法・大藏省預金部特別會計規則・預金部資金運用規則・日本銀行ノ手形割引ニ因ル損失ノ補償ニ關スル法律・教育改善及農村振興基金特別會計法

# 經濟法令

## 輸出組合法

法律第二十七號 (大正十四年三月二十八日)

第一條 同一種類ノ重要輸出品ノ輸出ヲ業トスル者又ハ同一市場ヲ目的トシテ商品ノ輸出ヲ業トスル者ハ其ノ輸出貿易ノ振興ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲ス目的ヲ以テ輸出組合ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ重要輸出品ハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 輸出組合ハ法人トス

第三條 輸出組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 組合員ノ取扱商品ノ委託輸出、輸出ノ斡旋、保管、選別、包裝、荷造其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設  
二 組合員ノ營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲必要ナル取締又ハ事業經營ニ對スル制限

三 海外市場ノ調査、新販路ノ開拓其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

第四條 輸出組合ハ其ノ名稱中ニ輸出組合ナル文字ヲ用フヘシ  
輸出組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ輸出組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第五條 同一又ハ重複スル地區ニ於テ二個以上ノ同種ノ輸出組

經濟法令

合ヲ設立スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第七條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第八條 營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ輸出組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得

第九條 營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲特ニ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ輸出組合ノ組合員ニ非サル者ニシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スルモノニシテ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ依ラシムルコトヲ得

第十條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十一條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ其ノ事實ノ生シタル後二週間内ニ之ヲ登記スヘシ  
登記スヘキ事項ニシテ主務大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第十二條 輸出組合ヲ設立セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ過半数ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキト雖特別ノ事由アル場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ招集スルコトヲ得

第二十卷 (第五號 一五三) 九二五

第十三條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十四條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得但シ設立同意者ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第十五條 輸出組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 目的

二 名稱

三 地區

四 事務所ノ所在地

五 組合員タル資格ニ關スル規定

六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

七 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

八 剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定

九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

十 組合員ノ權利義務ニ關スル規定

十一 事業及其ノ執行ニ關スル規定

十二 役員ニ關スル規定

十三 會議ニ關スル規定

十四 會計ニ關スル規定

十五 存立ノ時期又ハ解散ノ事山ヲ定メタルトキハ其ノ時期

又ハ事由

第十六條 輸出組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間内

ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ  
登記スヘキ事項左ノ如シ

一 前條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲ケタル事項

二 事務所

三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

四 設立認可ノ年月日

五 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ但シ前項第三號ニ掲ケタル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

組合員ノ有スヘキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第十八條 組合員ノ責任ハ第六條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第十九條 組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

理事カ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依リ請求アリタル後二週間内ニ總會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十條 輸出組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ設立同意者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ理事ハ組合員又ハ設立同意者ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第二十一條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ一ヲ超エサル範圍内ニ於テ出資口數ニ應シ二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第二十二條 經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル輸出組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ但シ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

前項ノ總會ノ議決ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 組合員タル資格ヲ有スル者輸出組合ニ加入セムトスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ輸出組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於

テ除選スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 検査ヲ行フ輸出組合ニ在リテハ検査員ヲ置クヘシ検査員ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 輸出組合ハ検査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 主務大臣必要ト認ムルトキハ輸出組合員ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ定款及創立總會又ハ總會ノ決議録、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十條 事務所ノ新設移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ但シ合併又ハ出資一口ノ金額減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ヨリ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人カ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

出資一口ノ金額減少ノ登記申請書ニハ前項ニ規定スル書面ノ外本法ニ依リ催告ヲ爲シタルコト及異議ヲ述ヘタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十一條 解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員、其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ  
前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ付之ヲ準用ス

輸出組合カ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務大臣ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スヘシ

第三十二條 清算終了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第三十三條 民法第四十四條第一項、第四十五條第二項、第三項、第四十八條、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條、非訟事件手續法第三十八條、第三十八條ノ二、第四百一十一條乃至第五百一十一條ノ六、第五百五十四條乃至第五百五十八條、第一百十五條、第一百七十五條、第一百七十六條及第一百七十八條並產業組合法第五條、第六條、第十條、第十一條第一項、第十二

條、第十八條乃至第二十二條、第二十四條、第二十六條乃至第三十一條ノ二、第三十三條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條乃至第三十七條、第三十九條乃至第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十七條、第六十條乃至第六十一條、第六十二條(第一項第四號ヲ除ク)、第六十三條第一項、第六十三條ノ二乃至第六十五條、第六十六條第一項、第六十七條、第七十條乃至第七十三條ノ三、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第九十六條、第九十七條及第四百四條ノ規定ハ輸出組合ニ付之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ之ヲ二週間トシ産業組合法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ主務大臣トス

第三十四條 主務大臣ハ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第三十五條 左ノ場合ニ於テハ輸出組合ノ理事、監事又ハ清算人ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケヘキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二 本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

三 行政官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

四 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サス又ハ其ノ検査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ

五 本法ニ依ル總會ノ招集ヲ怠リタルトキ

六 本法ニ依リ事務所ニ備置クヘキ書類ヲ備ヘサルトキ、其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

七 本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ拂戻シタルトキ

八 本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

九 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セサルトキ

十 本法ニ違反シテ出資一口ノ金額ヲ減少シ又ハ組合ノ合併ヲ爲シタルトキ

十一 本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十二 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ

十三 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

十四 組合ノ目的ニ非サル營利事業ヲ爲シタルトキ

第三十六條 第九條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十八條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第三十九條 輸出組合ノ證票若ハ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル

者又ハ偽造若ハ變造ノ證票若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 輸出組合ノ理事、監事若ハ清算人又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十一條 前條第一項ニ掲ゲタル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十二條 第三十九條ニ掲ゲタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第四十條ニ掲ゲタル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(參照)

明治三十一年(六月二十一日公布)法律第十四號非訟事件手續法抄錄

第二百六條 民法第八十四條、第一千零七條及民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第二項、第二百六十二條、第二百六十二條ノ二、第五百三十六條及商法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第六十

經濟法令

條第二項、第七十九條、第七十五條第三項、第八十七條ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所ノ地方裁判所ノ管轄トス

第二百七條 過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二百八條 過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

明治四十年(四月二十四日公布)法律第四十五號刑法抄錄  
第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

一 第一百八條、第一百九條第一項ノ罪、第一百八條、第一百九

條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂

第二十卷 (第五號 一五八) 九三〇

罪

二 第一百十九條ノ罪

三 第一百五十九條乃至第六十一條ノ罪

四 第六百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪

五 第六百七十六條乃至第六百七十九條、第六百八十一條及ヒ

第六百八十四條ノ罪

六 第六百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪

七 第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪

八 第二百四條乃至第二百十六條ノ罪

九 第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷

ニ致シタル罪

十 第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪

十一 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪

十二 第二百三十條ノ罪

十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八

條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪

十四 第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪

十五 第二百五十三條ノ罪

十六 第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

一 第一百一條ノ罪及ヒ其未遂罪

二 第五百五十六條ノ罪

三 第九十三條、第九十五條第二項、第九十七條ノ罪及ヒ第九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

重要輸出品工業組合法

法律第二十八號 (大正十四年三月二十八日)

第一條 重要輸出品ノ製造ニ關スル工業者ハ其ノ工業ノ改良發達ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲ス目的ヲ以テ工業組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ工業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ重要輸出品ハ主務大臣之ヲ指定ス

第二條 工業組合ハ法人トス

第三條 工業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 組合員ノ製品、其ノ原料若ハ材料又ハ製造若ハ加工ノ設備ニ對スル検査其ノ他必要ナル取締又ハ事業經營ニ對スル制限

二 共同設備ノ設置其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設

三 組合員ノ營業ニ關スル指導、研究、調査其ノ他組合員ノ目

的ヲ達スルニ必要ナル施設  
組合員ノ委託ニ依リ其ノ製品ノ加工若ハ販賣又ハ組合員ノ營業ニ必要ナル物ノ供給ヲ爲ス、コトヲ得

第四條 工業組合ハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フヘシ

經濟法令

工業組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第五條 工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第六條 工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第七條 營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ工業組合ニ對シ検査其ノ他ノ施設ヲ命スルコトヲ得

第八條 營業上ノ弊害ヲ矯正スル爲特に必要ト認ムルトキハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ工業組合ノ組合員ニ非サル者ニシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スルモノヲシテ其ノ組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ依ラシムルコトヲ得

第九條 工業組合又ハ其ノ組合員ハ其ノ營業ニ關スル重要物産同業組合法ニ依リ同業組合ニ加入セス又ハ之ヨリ脱退スルコトヲ得

第十條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十一條 本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ其ノ事實ノ生シタル後二週間内ニ之ヲ登記スヘシ

第十二條 工業組合ヲ設立セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役



經濟法令

第二十卷 (第五號 一六〇) 九三二

員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ組合員タル資格ヲ有スル者ノ工業ノ種類ニ以上アルトキハ各其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキト雖特別ノ事由アル場合ニ於テハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ招集スルコトヲ得

第十三條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ設立同意者ノ工業ノ種類ニ以上アルトキハ各其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十四條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得但シ設立同意者ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ  
第十五條 工業組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 地區
- 四 事務所ノ所在地
- 五 組合員タル資格ニ關スル規定
- 六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 七 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
- 八 剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定
- 九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
- 十 組合員ノ權利義務ニ關スル規定

十一 事業及其ノ執行ニ關スル規定

十二 役員ニ關スル規定

十三 會議ニ關スル規定

十四 會計ニ關スル規定

十五 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十六條 工業組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

登記スヘキ事項左ノ如シ

一 前條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲ケタル事項

二 事務所

三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

四 設立認可ノ年月日

五 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ但シ前項第三號ニ掲ケタル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

組合員ノ有スヘキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第十八條 組合員ノ責任ハ第五條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第十九條 組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

理事カ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間内ニ總會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十條 工業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ設立同意者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ理事ハ組合員又ハ設立同意者ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第二十一條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ一ヲ超エサル範圍内ニ於テ出資口數ニ應ジ二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第二十二條 經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル工業組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ但シ組合員設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

前項ノ總會ノ議決ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ

四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 組合員タル資格ヲ有スル者工業組合ニ加入セムトスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ工業組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 検査ヲ行フ工業組合ニ在リテハ検査員ヲ置クヘシ検査員ノ選任及解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 工業組合ハ検査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條 行政官廳必要ト認ムルトキハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 行政官廳必要ト認ムルトキハ工業組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十九條 工業組合聯合會ハ所屬ノ工業組合及工業組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲メ之ヲ設立スルコトヲ得

聯合會ハ工業組合又ハ工業組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス聯合會ハ法人トス

第三十條 工業組合聯合會ヲ設立セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員

ヲ以テ創立委員會ヲ附キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條 創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十四條ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス

第三十二條 工業組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ聯合會設立當時ノ理事及監事ハ創立委員會ニ於テ之ヲ選任スヘシ特別ノ事由アルトキハ理事ハ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 工業組合ニ關スル規定ハ第三十八條ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第三十八條ノ二ノ規定ヲ除クノ外工業組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ第三條中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トス

第三十四條 設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ定款及創立總會、總會又ハ創立委員會ノ決議録、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十五條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ但シ合併又ハ出資一口ノ金額減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ヨ

リ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人カ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

出資一口ノ金額減少ノ登記申請書ニハ前項ニ規定スル書面ノ外本法ニ依リ催告ヲ爲シタルコト及異議ヲ述ヘタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十六條 解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員、其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ付之ヲ準用ス

工業組合力命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ行政官廳ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スヘシ

第三十七條 清算終了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第三十八條 民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條、第七

十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八十一條、非訟事件手續法第三十八條、第三百三十八條ノ二、第四百一十一條乃至第五百一十一條ノ六、第五百五十四條乃至第五百五十八條、第六百六十五條、第七百七十五條、第七百七十六條及第七百七十八條並産業組合法第五條、第六條、第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第二十四條、第二十六條乃至第三十一條ノ二、第三十三條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條乃至第三十七條、第三十八條ノ二乃至第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十七條、第六十條乃至第六十一條、第六十二條(第一項第四號ヲ除ク)、第六十三條第一項、第六十三條ノ二乃至第六十五條、第六十六條第一項、第六十七條、第七十條乃至第七十三條ノ三、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十八條、第九十六條、第九十七條及第四百四條ノ規定ハ工業組合ニ付之ヲ準用ス但シ民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ之ヲ二週間トシ産業組合法中主務大臣、地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ行政官廳トス

第三十九條 左ノ場合ニ是テハ工業組合ノ理事、監事又ハ清算人ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケヘキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二 本法ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

三 行政官廳又ハ總會若ハ總代会ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又

經濟法令

ハ事實ヲ隠蔽シタルトキ

四 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サス又ハ其ノ檢査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ

五 本法ニ依ル總會又ハ總代会ノ招集ヲ怠リタルトキ

六 本法ニ依リ事務所ニ備置クヘキ書類ヲ備ヘサルトキ、其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

七 本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ拂戻シタルトキ

八 本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

九 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セサルトキ

十 本法ニ違反シテ出資一口ノ金額ヲ減少シ又ハ組合ノ合併ヲ爲シタルトキ

十一 本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十二 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財産ノ分配ヲ爲シタルトキ

十三 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

十四 組合ノ目的ニ非サル營利事業ヲ爲シタルトキ

第四十條 第八條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十一條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十二條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定

ハ前三條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第四十三條 工業組合ノ證票若ハ検査證ヲ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證票若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證票若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 工業組合ノ理事、監事若ハ清算人又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十五條 前條第一項ニ掲ケタル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十六條 第四十三條ニ掲ケタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第四十四條ニ掲ケタル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

### 染料製造獎勵ニ關スル法律

法律第二十九號 (大正十四年三月二十八日)

第一條 政府ハ染料ノ製造ヲ獎勵スル爲本法施行ノ日ヨリ六年ヲ限リ毎年百萬圓以内ノ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

前項獎勵金ノ總額ハ六年ヲ通シ四百萬圓以内トス

第一項ノ染料ノ品種ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 本法ニ依リ獎勵金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ帝國法律ニ依リ設立シタル株式會社ニシテ其ノ資本ノ半額以上及議決權ノ過半數カ帝國臣民ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リコールドタル分溜物ノ處理ヲ以テ染料製造ノ工程ヲ開始スルコトヲ要ス

第三條 獎勵金ノ額ハ各品種ニ付其ノ市價及生産費ヲ標準トシ相當利益ヲ參酌シテ主務大臣毎年之ヲ定ム

第四條 詐欺ニ因リ會社カ獎勵金ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ受ケタル獎勵金ニ法定利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

前項ノ償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

### 外國人土地法

法律第四十二號 (大正十四年三月三十一日)

第一條 帝國臣民又ハ帝國法人ニ對シ土地ニ關スル權利ノ享有ニ付禁止ヲ爲シ又ハ條件若ハ制限ヲ附スル國ニ屬スル外國人又ハ外國法人ニ對シテハ勅令ヲ以テ帝國ニ於ケル土地ニ關ス

ル權利ノ享有ニ付同一若ハ類似ノ禁止ヲ爲シ又ハ同一若ハ類似ノ條件若ハ制限ヲ附スルコトヲ得

第二條 帝國法人又ハ外國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數カ前條ノ外國人又ハ外國法人ニ屬スルモノニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ外國人又ハ外國法人ト同一ノ國ニ屬スルモノト看做シ前條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ資本ノ額又ハ議決權ノ數ノ計算ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第三條 外國ノ一部ニシテ土地ニ關シ特別ノ立法權ヲ有スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ國ト看做ス

第四條 國防上必要ナル地區ニ於テハ勅令ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ土地ニ關スル權利ノ取得ニ付禁止ヲ爲シ又ハ條件若ハ制限ヲ附スルコトヲ得

前項ノ地區ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第五條 帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數カ外國人又ハ外國法人ニ屬スルモノニ對シテハ前條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ資本ノ額又ハ議決權ノ數ノ計算ニ付テハ第二條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 土地ニ關スル權利ヲ有スル者カ本法ニ依リ其ノ權利ヲ享有スルコトヲ得サルニ至リタル場合ニ於テハ一年內ニ之ヲ讓渡スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル權利ノ讓渡ナカリシ場合ニ於テ其ノ權利ノ

## 經濟法令

處分ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ土地ニ關スル權利ヲ有スル者ノ相續人其ノ他ノ包括承繼人カ本法ニ依リ其ノ權利ヲ取得スルコトヲ得サル場合ニ之ヲ準用ス但シ第一項ニ規定スル期間ハ之ヲ三年トス

第一項及前項ニ規定スル期間ハ通シテ三年ヲ越ユルコトヲ得ス

### 附則

第七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本法ノ施行ニ伴フ不動産登記法ニ關スル特例ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 明治六年第十八號布告及明治四十三年法律第五十一號ハ之ヲ廢止ス

第十條 明治三十二年法律第六十七號中「土地ノ抵當權者ナル外國人カ」ヲ「抵當權者カ抵當權ノ目的タル權利ヲ享有スルトヲ得サル場合ニ於テ」ニ、「抵當不動産」ヲ「抵當權ノ目的タル權利」ニ改ム

第十一條 民法第九百九十條中「日本人ニ非サレハ享有スルトヲ得サル權利ヲ有スル場合」ヲ「國籍ノ喪失ニ因リテ其有スル權利ヲ享有スルコトヲ得サルニ至リタル場合」ニ改メ「日本人」ニ「ヲ削ル

〔參照〕

明治三十一年(六月二十一日公布)法律第九號民法第四編第

五編抄錄

第九百九下條 國籍喪失者ノ家督相續人ハ戶主權及ヒ家督相

級ノ特權ニ屬スル權利ノミヲ承繼ス但遺留分及ヒ前戸主カ特ニ指定シタル相續財産ヲ承繼スルコトヲ妨ケス

國籍喪失者カ日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ行スル場合ニ於テ一年内ニ之ヲ日本人ニ讓渡ササルトキハ其權利ハ家督相續人ニ歸屬ス

明治三十二年(三月十六日公布)法律第六十七號

土地ノ抵當權者ナル外國人カ增價賣買ヲ請求スルニハ若シ賣買ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額コリ十分ノ一以上高價ニ抵當不動産ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ提供金額二十分ノ一ヲ加ヘタルモノト落價額トノ差額ヲ負擔スヘキ旨ヲ附言スルコトヲ要ス

明治六年(一月十七日)太政官布告第十八號(外國人ハ地所賣買買入書入禁止ノ件)同四十二年(四月十三日公布)法律第五十一號(外國人ノ土地所有權ニ關スル件ナリ)

### 預金部預金法

法律第二十五號 (大正十四年三月二十八日)

第一條 法律勅令ニ依リ大藏省預金部ニ預入ルル現金ハ預金部

預金トシ大藏大臣之ヲ管理ス

第二條 郵便貯金トシテ受入レタル現金ハ之ヲ大藏省預金部ニ

預入レ共ノ利子ヲ以テ貯金利子ノ支拂ニ充ツヘシ

第三條 預金部預金ノ種類、利子及取扱ニ關シテハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 預金部預金並大藏省預金部特別會計ノ積立金及支拂上ノ餘裕金ハ之ヲ預金部資金トシ預金部資金運用委員會ニ諮問シ有利且確實ナル方法ヲ以テ國家公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用スヘシ

預金部資金運用委員會ノ組織權限及預金部資金ノ運用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 預金部資金ノ運用ニ關スル事務ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム

#### 附則

本法ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

預金規則、明治二十三年法律第七十五號及明治三十九年勅令第二百一十一號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前大藏省預金部ニ於テ受入レタル預金ハ之ヲ預金部預金トス

預金規則第一條第三號ノ規定ニ依リ預金及其ノ預金ヲ以テ購入保管シタル國債證券並明治三十九年勅令第二百一十一號ニ依リ預金及預託ノ國債證券ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ付本法施行後三月内ニ預ケ人カ拂戻ノ請求ヲ爲ササルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ預金ハ之ヲ郵便貯金ニ振替ヘ國債證券ハ之ヲ郵便貯金法第九條ノ規定ニ依リ購入シタルモノト看做シテ保管ス

#### 〔參照〕

明治十八年(五月三十日)太政官布告第十三號預金規則抄錄  
第一條 大藏省中ニ預金局ヲ置キ左ノ貯金積立金ヲ預リ之ヲ

保管利殖セシム

第三 社寺教會社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ニシテ其  
諸願ニ據ルモノ

明治三十八年(二月十六日公布)法律第二十三號郵便貯金法  
抄録

第九條 郵便官署ハ郵便貯金預ケ人ノ請求ニ因リ其ノ貯金ノ  
一部ヲ以テ國債證券其ノ他ノ證券ヲ購入保管シ又ハ之ヲ賣  
却スルコトヲ得其ノ證券ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
明治二十三年(八月二十八日公布)法律第七十五號ハ預金ニ制  
限ヲ置キ整理公債證券ニ交換ノ件、同三十一年(八月六日公  
布)勅令第二百一十一號ハ明治三十七八年戰役ニ關スル一時賜  
金預託ノ件ナリ

### 大藏省預金部特別會計法

法律第十三號 (大正十四年三月二十八日)

第一條 大藏省預金部ノ會計ハ之ヲ特別トシ其ノ歲入ヲ以テ其  
ノ歲出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ預金部資金ノ運用利殖金及附屬雜收入  
ヲ以テ其ノ歲入トシ預金部預金ノ利子、運用手数料、毎年度  
豫算ノ定ムル所ニ依リ他ノ會計ヘ繰入ルル金額、事務取扱  
費、附屬諸費及運用損失金ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 預金部資金ニ屬スル運用資産ニシテ價格ノ減損ヲ生シ  
タルモノアルトキハ本會計ノ決算上生シタル剩餘又ハ積立金

經濟法令

ヲ以テ之ヲ償却スヘシ

第四條 本會計ノ決算上剩餘ヲ生シタルトキハ前條ノ償却ニ充  
テ剩餘アルトキハ之ヲ積立ツヘシ  
本會計ノ決算上不足ヲ生シタルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足ス  
ヘシ

第五條 所管大臣ハ日本銀行ニ命シ預金部預金ノ利子ノ支拂ヲ  
爲サシムル爲之カ資金ヲ日本銀行ニ交付スルコトヲ得

第六條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ  
總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 本會計ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
附則

附則

本法ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス  
明治二十三年法律第二十一號ハ之ヲ廢止ス但シ大正十三年度分

預金特別會計ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス  
預金特別會計ニ屬スル積立金ハ之ヲ本會計ニ歸屬セシム

〔參照〕

明治二十三年(三月十八日公布)法律第二十一號ハ預金局預金  
郵便貯金郵便爲替金郵便取立金特別會計ナリ

### 大藏省預金部特別會計規則

勅令第五十四號 (大正十四年三月三十一日)

第一條 歲入歲出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度九  
月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十卷 (第五號 一六七) 九三九



前項ノ豫定計算書ニハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ收支計算表及貸借對照表並其ノ年三月三十一日ニ於ケル運用資産明細表ヲ添附スヘシ

第二條 毎年度出納ノ完結迄ニ收入濟又ハ支出濟ト爲ラサルモノハ現ニ其ノ收支ヲ爲シタル年度ノ歳入又ハ歳出トス

第三條 預金部資金ニ屬スル運用資産ノ保有價格ハ毎年三月三十一日ニ於テ時價ニ準據シテ之ヲ改定スヘシ但シ時價ヲ超エサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 預金部資金ニ屬スル運用資産ニシテ價格ノ減損ヲ生シタルモノアルトキハ本會計ノ歳入ノ收入濟額ヨリ歳出ノ支出濟額ヲ控除シタル剩餘額ヲ以テ之ヲ償却シ尙不足アルトキハ積立金ヲ以テ之ヲ償却スヘシ

第五條 毎年度ニ於ケル歳入ノ收入濟額ヨリ歳出ノ支出濟額ヲ控除シ剩餘アルトキハ前條ノ償却ニ充テ殘餘アルトキハ之ヲ積立金ニ組入ルヘシ

第六條 歳入歳出ノ收入濟額カ歳出ノ支出濟額ニ對シ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スヘシ

第七條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第八條 運用金ノ出納ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第九條 大藏省預金部ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ預金部資金ノ受拂及運用益本會計ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第十條 所管大臣ハ毎月末ニ於ケル收支計算表、貸借對照表及

運用資産明細表ヲ調製スヘシ

收支計算表、貸借對照表及運用資産明細表ノ様式ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十條 本令ニ規定セサルモノニ付テハ會計規則ヲ準用ス  
附則

本令ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス

預金部資金運用規則

勅令第五十五號 (大正十四年三月三十一日)

第一條 預金部資金ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ運用スヘシ

一 國債又ハ地方債ノ應募、引受又ハ買入

二 一般會計又ハ特別會計ニ對スル貸付

三 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ノ發行ニ係ル社債又ハ產業債券ノ應募、引受又ハ買入

四 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル銀行ニシテ社債ヲ發行セサルモノニ對スル貸付

五 外國政府ノ發行ニ係ル國債ノ應募又ハ買入

六 日本銀行ニ對スル在外指定預金

第二條 大藏大臣ハ毎年度預金部資金ノ運用ニ關シ必要ナル計畫ヲ定メ豫メ之ヲ預金部資金運用委員會ニ付議スヘシ其ノ計畫ニ付追加又ハ變更ヲ爲サルトキ亦同シ

第三條 大藏大臣ハ毎年度預金部資金運用報告書ヲ調製シ年度經過後四月内ニ之ヲ預金部資金運用委員會ニ提出スヘシ

前項ノ報告書ニハ當該年度ニ於ケル預金部資金運用ノ狀況及運用資産ノ異動ニ關スル重要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外預金部資金ノ運用ノ爲必  
要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 預金部資金運用委員會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ大藏大臣ノ諮問ニ應シ預金部資金ノ運用ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第六條 預金部資金運用委員會ハ預金部資金ノ運用ニ關シ大藏大臣ニ建議スルコトヲ得

第七條 預金部資金運用委員會ハ會長一人及委員十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

臨時必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第八條 會長ハ大藏大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 大藏政務次官

二 大藏次官

三 關係各廳高等官

四 會計検査院部長

五 日本銀行總裁

六 學識經驗アル者

前項第三號、第四號及第六號ニ掲クル者ヲ以テ充ツル委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

臨時委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第十條 會長ハ會務ヲ總理ス

經濟法令

會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第十一條 預金部資金運用委員會ニ幹事ヲ置ク  
幹事ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ大藏部内高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十二條 預金部資金運用委員會ニ書記ヲ置ク  
書記ハ大藏部内判任官ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命スト司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ運用中ノ預金部資金ニシテ其ノ運用方法カ第一條ノ規定ニ該當セサルモノニ付テハ同條ノ規定ニ拘ラス仍其ノ運用方法ニ依ルコトヲ得

日本銀行ノ手形割引ニ因ル損失ノ補償

ニ關スル法律

法律第三十五號 (大正十四年三月三十日)

政府ハ日本銀行カ大正十二年勅令第四百二十四號第一項第四號ニ該當スル手形ニシテ大正十四年十月一日ヨリ大正十五年九月三十日迄ノ間ニ於ケル滿期日ヲ有スルモノノ割引ヲ爲シ之ニ因リテ損失ヲ受ケタル場合ニ於テ同行ニ對シ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第二十卷 (第五號 一六九)

九四一

前項補償金額ハ大正十二年勅令第四百二十四號ニ依ル補償金額

ト合シテ一億圓ヲ超ユルコトヲ得ス  
日本銀行ハ本法ニ依リテ爲ス手形ノ割引ニ付政府ノ監督ヲ受ク  
ヘシ

〔参照〕

大正十二年(九月二十七日公布)勅令第四百二十四號

政府ハ日本銀行カ左ノ各號ノ一ニ該當スル手形ニシテ大正十四年九月三十日以前ノ満期日ヲ有スルモノノ割引ヲ爲シ之ニ因リテ損失ヲ受ケタル場合ニ於テ一億圓ヲ限リ同行ニ對シ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得但シ第一號乃至第三號ニ規定スル手形ノ割引ハ大正十三年三月三十一日迄ニ爲シタルモノニ限ル

- 一 震災地(東京府、神奈川縣、埼玉縣、千葉縣及靜岡縣ヲ謂フ以下同シ)ヲ支拂地トスル手形又ハ震災地ニ震災ノ當時營業所ヲ有シタル者ノ振出シタル手形若ハ之ヲ支拂人トスル手形ニシテ大正十二年九月一日以前ニ銀行ノ割引シタルモノ
  - 二 前號ニ規定スル手形ノ書換ノ爲ニ振出シタル手形
  - 三 前二號ニ規定スル手形又ハ震災地ニ營業所ヲ有スル銀行カ他ノ銀行ニ對シ大正十二年九月一日以前ニ發行シタル預金證書若ハ「コールローン」ノ證書ヲ擔保トシテ銀行ノ振出シタル手形
  - 四 前三號ニ規定スル手形ニシテ日本銀行ノ割引シタルモノノ書換ノ爲ニ振出シタル手形
- 日本銀行ハ本令ニ依リテ爲ス手形ノ割引ニ付政府ノ監督ヲ受

クヘシ

### 教育改善及農村振興基金特別會計法

法律第十四號 (大正十四年三月二十八日)

- 第一條 教育改善及農村振興基金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス
  - 第二條 造幣局資金ノ内一億三千萬圓ハ之ヲ本基金ニ繰入ルヘシ
  - 第三條 本基金ハ教育ノ改善及農村ノ振興ニ必要ナル費途ニ之ヲ使用ス
  - 第四條 第二條ノ規程ニ依リ繰入レタル金額ハ本基金ノ元資金トシ之ヲ費消スルコトヲ得ス
  - 第五條 本基金ハ國債ヲ以テ之ヲ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ其ノ利殖金ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ
  - 第六條 本基金ヲ使用セムトスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出スヘシ
  - 第七條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
  - 第八條 本基金ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得
- 附則
- 本法ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス